

2020年3月5日

主催（公財）ミズノスポーツ振興財団

「2019年度 ミズノ スポーツライター賞」受賞者決定

公益財団法人ミズノスポーツ振興財団では、1990年度から「ミズノ スポーツライター賞」を制定しており、2019年度で30回の節目を迎えます。この賞は、スポーツに関する報道・評論およびノンフィクション等を対象として、優秀な作品とその著者を顕彰するとともに、スポーツ文化の発展とスポーツ界の飛躍を期待し、これからの若手スポーツライターの励みになる事を願い制定したものです。

3月5日（木）、グランドプリンスホテル高輪で選考委員会を開催し、受賞作品および受賞者を以下の通り決定いたしました。

なお、この「ミズノ スポーツライター賞」の表彰式は、4月21日（火）にグランドプリンスホテル新高輪で行います。

【ミズノ スポーツライター賞 最優秀賞】（トロフィー、副賞100万円）

- ・『国境を越えたスクラム』－ラグビー日本代表になった外国人選手たち－

（中央公論社）

山川 徹（やまかわ とおる）

【ミズノ スポーツライター賞 優秀賞】（トロフィー、副賞50万円）

- ・『那須雪崩事故の真相』－銀嶺の破断－

（山と溪谷社）

阿部 幹雄（あべ みきお）

詳細は別記の通りです。

記

- 名 称： 2019年度 ミズノ スポーツライター賞
- 制 定 目 的： スポーツに関する優秀な作品とその著者（個人またはグループ）を顕彰し、スポーツ文化の発展とスポーツ界の飛躍を期待するとともに、これからの若手スポーツライターの励みになる事を願い制定
- 選 考 対 象： 主として新聞・雑誌・単行本などを通じて書かれたスポーツ分野の報道・評論・ノンフィクション等で、当該年度に発表されたもの
- 選 考 委 員： 委員長 河野 通和（(株)ほぼ日「ほぼ日の学校長」、『中央公論』
『婦人公論』『考える人』元編集長）
委 員 上治 丈太郎（(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会
組織委員会 参与）
〃 杉山 茂 （スポーツプロデューサー、
元NHKスポーツ報道センター長）
〃 ヨーコ セッターランド（(公財)日本スポーツ協会常務理事、
スポーツキャスター）
〃 高橋 三千綱（芥川賞作家）
〃 水野 英人（(公財)ミズノスポーツ振興財団 副会長）

※順不同

対 象 者：日本人および日本在住の外国人

受賞者及び選考理由：

【ミズノ スポーツライター賞 最優秀賞】

●『国境を越えたスクラム』ーラグビー日本代表になった外国人選手たちー

(中央公論社)

山川 徹 (やまかわ とおる)

2019年ラグビーW杯は日本代表の活躍で大変な盛り上がりを見せたが、一般人の中にはチームに多くの外国人選手が含まれていることに戸惑う向きもあった。本書は、外国人選手の参加が一朝一夕に成ったのではなく、日本ラグビーの歴史そのものが生み出した事態であり「国境を越えたスクラム」こそ時代の要請であることを、著者の自分史とも重ね合わせて展開している。

フリーライターとして日本国内の「国際化の現場」を取材する機会が多かった著者は、日本で働く外国人がまだ少なかった時代から外国人選手が日本代表になっていたラグビーを「目指すべきダイバーシティの一つのモデル」、「ラグビー日本代表のあり方に、これからの日本社会が歩むべきヒントが隠されている」と考え、取材を始めた。

ラグビーにはさまざまな戦法があり、作戦の選択においてもフォワードとバックスの関係や

対戦相手の分析に基づく「読み」が必要で、ポジションごとにそれぞれのチームへの献身のしかたが異なる。そこでは国籍という資格や選手を国籍で区別することはあまり意味を持たない。2019年W杯で、建前上「多様性」という見栄えのよい言葉を掲げた代表チームが、実際にゲームのなかでその「多様性」をみごとに機能させ、チームワークに昇華させていた姿に、ラグビーは日本社会の国際化を象徴するスポーツだとする著者の指摘は説得力をもって重なる。

多くの選手たちへのインタビューをもとに、ラグビー大国からやって来て日本に融け込み、日本のラグビーを変えてきた外国出身選手たちの貢献を浮かび上がらせた労作と言える。

初版が出たのはW杯開幕前で、代表チームの大活躍を予見するような本書は、タイムリー性にも恵まれた。

【ミズノ スポーツライター賞 優秀賞】

●『那須雪崩事故の真相』—銀嶺の破断—

(山と溪谷社)

阿部 幹雄 (あべ みきお)

2017年3月、栃木県那須岳の中腹で、「春山安全登山講習会」に参加して訓練中だった高校生の一団を雪崩が襲い、高校生7人と教員1人が死亡、40名が負傷するという大惨事が起こった。

本書は「雪崩事故防止研究会」の代表を務める著者が事故の全容とその原因を徹底して突き詰めて書かれている。著者自身が1981年、中国四川省のミニャ・コンガで8名が滑落した遭難の生き残りであり、その後、今日まで遺骨の捜索と収容や遺族の訪問を続けている。その思いを土台に雪崩事故の真相に迫る著者の筆致は執拗かつ詳細であり、読む人を肅然とさせる力を持っている。

極めて専門的で難解な解説がいくつも示されるが、仮にそれ等を理解しなくとも著者が丁寧に事故の真相に迫ろうとしているのはよくわかる。著者以外の山岳の専門家の分析も含め、感情論を抑え、あくまでも科学的に雪崩事故にアプローチしている。雪崩についての科学的な分析、生徒たちの当日の行動についての追跡と推論という客観的な叙述に加えて、親や生徒たちの肉声を記録した人間味のある記述にも多くのページが割かれている。本書全体に、ほとんど見開きごとと言っていいくらい現場の写真や説明図が配されて読者の理解を助けてくれる。事故の全貌をできるだけ正確に読者に伝えたいという著者の熱い思いが伝わってくる。その背景に著者のミニャ・コンガ体験が深く根を下ろしていることが読み取れる、良心的な一冊である。

以上

(お問合せ先)

公益財団法人ミズノスポーツ振興財団事務局 内橋・澤井 TEL. 03(3233)7009
ミズノ株式会社 コーポレートコミュニケーション部 小山・山本 TEL. 03(3233)7037